

巻頭言

本学は1997年4月に開学し、今年（2017年）3月末で満20年を迎えました。本年度は、11月4日の開学20周年記念式典を始めとして、多くの記念事業が計画されています。本学は高知県が出資し私立大学として発足しましたが、2009年には全国に先駆けて新たな設置形態である公立大学法人に移行し、20周年を迎えたのです。この間、大学院や経済・マネジメント系の学群を整備したり、研究所を開設したりして、常に進化する大学であり続けています。また、教育方法も開学時からクォーター制を採用するなど、様々な試みを成功させてきました。大学紀要では、そのような活動の一端を発信し続けています。

本巻では、まず本学の開学20周年を記念する論文を特集しています。この20年間に行ってきた教育・研究・社会貢献活動を紹介し、学生の教育と社会貢献を兼ねた地域活動や、国際交流の内容と成果を報告するとともに、本学の志願者の20年間の動向を分析します。これらから、次の20年に向けて、本学の質をさらに向上し、「日本にない大学」、「世界の一流の大学」を目指すための方向性が見えてくると思います。

また、「里山基盤科学技術の社会実装モデルプロジェクト2016」の特集では、前年度に続き2016年度に行った、佐岡地区での基盤科学技術の社会実装プロジェクトの様々な要素を紹介し、これには、水資源、エネルギー、建築から、文化、人の交流まで、対象の里山地区を様々な学術の視点から見た様相を紹介し、最終的に里山地区の持続性を確保するための道を探ります。科学的・客観的な事実のみならず、人にとっての価値の領域にまで触れる研究の可能性に挑戦する試みとして、今後の社会のあるべき方向性を開くものとなることを期待しています。

本巻にはこれらの特集以外にも、本学での1年間の活動から得られた貴重な成果が取りまとめられており、読者の方々に有用な情報提供の場になっていると信じています。科学学術雑誌などでは得られない、紀要ならではの情報が提供できれば幸いです。

学長 磯部雅彦

